

自閉症スペクトラム障害の特性と夢の感覚および感情に関する予備的研究

松田 英子

松岡 和生

岡田 斉

(東洋大学社会学部)

(岩手大学人文社会科学部)

(文教大学人間科学部)

自閉症スペクトラム障害と夢の特性に関する研究は、海外では夢の情動やテーマからの分析が主であるが、日本における報告はほとんどない。また DSM-5 にて、自閉症スペクトラム障害の診断基準に新たに感覚異常が加わり、今後自閉症スペクトラム障害の感覚特性と夢で体験する感覚との研究の進展が期待されている。

本研究の目的は、夢日記法で収集された自閉症スペクトラム障害の青年の夢資料に出現した感覚と感情の特徴を分類することであった。夢資料提供者は、鮮明な夢を想起することを楽しんでいる、自閉症スペクトラム障害の大学4年生であった。夢内容の質的分析の結果、想起された夢内容には、視覚や聴覚イメージの鮮明性のみならず、味覚、嗅覚などマイナーな感覚の体験が多く反映されていた。また、夢では肯定的感情の体験が多く、否定的感情の体験が少なかった。

今後の課題は、この予備的な研究をふまえ、自閉症スペクトラム障害の感覚異常のアセスメントと夢の特性の関連を児童期から青年期までの十分なデータで検証することである。

キーワード：自閉症スペクトラム障害、夢内容分析、夢の感覚、夢の感情、感覚異常

問 題

アメリカ精神医学会のDSM-5 (American Psychiatric Association, 2013) では、自閉症スペクトラム障害 (Autism spectrum disorder: ASD) は神経発達障害のカテゴリーに分類されている。DSM-5によるASDの診断(299.00)には、A. 神経発達の障害から、複数の社会的状況で、社会的コミュニケーションおよび対人相互反応における持続的な欠陥があり社会適応に支援が必要なこと、B. 行動や興味が限局的で反復的であること、およびC. 症状は小児期早期に存在しなければならないと3つの基準が設けられた。このうち、基準Bは、その前版であるDSM-IV (American Psychiatric Association, 1994) からの変更があり、「感覚刺激過敏性・鈍感性および、環境への感覚的異常な興味」の項目が新たに診断基準に追加された(青木, 2012)。具体的には基準Bは次の4項目のうち2項目以上を満たすこととして、1. 常同的または反復的な話し方、運動、物の使用、2. 習慣や儀式化された言語的あるいは非言語的行動パターンへの過剰な執着、あるいは変化への過度な抵抗、3. 強度で異常に局限

して固定化された対象への興味、4. 感覚の入力への反応の亢進(過敏さ)あるいは減弱(鈍感さ)または環境の感覚的側面に対する並外れた興味を挙げており、項目4の感覚異常が新たに追加された。この感覚異常の特性は、幼少期だけでなく成人期以降も維持され、ASD児・者の社会適応困難の原因となっている可能性が指摘されている(高橋・田部・石川, 2012)。

また、感覚異常の程度や種類も個性性が高い(長南, 2014)。例えば、聴覚過敏があるASD児は、日常生活の中で音響刺激を完全に避けることが難しいので、イヤーマフや耳栓を使用している(辻, 2018)。また、興奮すると頭を壁にぶつける自傷行動をとる場合は、ヘッドギアを装着するなどの対応をとるのは一般的である。筆頭筆者は、特別支援学校にて心理相談業務に携わっているが、実際にASD児の感覚特性の表現として、特定の匂いに関するこだわりがある、例えば自分の排泄物の匂いを毎回確認する、特定の味を好み、それ以外の味を嫌うためひどい偏食につながる、大きい音や公衆場面でのざわつきなどを嫌がる一方で、自分の発する声は状況にそぐわずに大きすぎる、暑さ寒さに鈍感で薄着をして風邪をひく、脱水症状を起こす、皮膚感覚に敏感ですぐに服をぬいでしまう、着替えを嫌がるため時間がかかり登校が遅れる、痛み鈍感なため、歯医者にかかるのが遅れるなど、特定の感覚の過敏さや鈍感さは一般的に観察できる現象であ

本研究は科学研究費補助金基盤研究(C)(JP17K04461)研究代表者(松田英子)の補助を受けた。本稿に関し、利益相反に関する開示事項はありません。また、快く夢資料を提供してくださった研究協力者の方々に心より感謝申し上げます。

る。ASD児は知的障害児と比べて、嗅覚・味覚の問題が目立つという指摘もある(熊崎, 2016)。幼児における自閉症傾向と偏食傾向の相関が指摘されているが(志澤・義村・趙・十一・星野・桂, 2018), この偏食も嗅覚の異常で説明できるとの指摘がある(熊崎, 2016)。

近年、発達障害児・者の特性と想起された夢の特徴を関連付ける研究が、海外で報告されつつある(Daoust, Lusignan, Braun, Mottron & Godbout, 2008; Schredl, Bumb, Alm & Sobanski, 2017; Hilakivi, 1987)。夢内容は主として睡眠の認知的側面から構成され、情動的側面と行動側面も夢内容に反映されるため(松田, 2006), 想起者の特性と想起された夢の特徴の相関研究は、情緒不安定性や創造性を含むビック5などのパーソナリティ特性(e.g. 鈴木・松田, 2012)や視覚イメージ鮮明性や空想傾性(e.g. Hiscock & Cohen, 1973, Levin & Fireman, 2001-2002)などの認知特性を中心に検討されてきたが、ASD, ADHD, LD等発達障害の特性にも注目が集まっている。

悪夢と合併精神疾病についての研究報告をレビューしたLemyre, Bastien & Vallieres (2019)は、発達障害のうちADHDとASDを取り上げ、ADHDの成人は統制群より悪夢の体験頻度が多いが、ASDの児童と青年は悪夢の体験頻度が統制群より低く、夢の情動のうち混乱と怒りが少なく、恐怖、悲しみ、フラストレーション、不安、恥は差がない傾向を総括している。Daoust et al. (2008)では、ASD青年と定型発達の青年のグループに対し、夢についての質問紙調査をした結果、ASDは夢が少なく、悪夢が少なく、情動に乏しいことを見出した。また、睡眠実験でレム睡眠期覚醒法によって言語性IQを統制したASD青年と定型発達の青年のグループの夢を収集して比較したところ、ASD青年の夢は相対的に、夢が短く、夢の中の設定が少なく、登場する物、人物、社交が少ないことを見出した。松田(2019)は、ASD青年の夢内容とその展開を、3つの発達課題(大学卒業、進路・就職、恋愛・異性関係)から分析し、Daoust et al. (2008)が指摘する、ASD青年の夢は、想起頻度が少なく、悪夢が少ない、夢の中の設定が少なく、物が少ない、人物が少ない、社交が少ないとの指摘のうち、悪夢が少なく、夢の情動に乏しく、夢は短く、夢の中の設定が少なく、社交が少ない点で一致がみられたことを確認した。また、ドイツでの大規模サンプルデータ(夢日記法とWEB調査)における夢の頻出テーマの分類(Mathes, Schredl & Goritz, 2014)と比較した結果、乗り物89%、女の子とデート54%、テーマパーク51%、食べ物49%と、夢のテーマにバリエーションがなく、常同的であり、友達43%と出現するも

の、相互作用はあまりみられず、社交は35%にとどまっているなど、夢の内容においてもASDの行動特性や興味の限局性を支持していた(松田, 2019)。

しかし、Daoust, et al. (2008)も痛覚以外の夢の感覚特性について調べていない。これまでのASDと夢の研究では夢の情動や感情とテーマの分析が主であり、感覚についてはほとんど調べられていないが、DSM-5によるASDの診断に感覚異常が新たに付け加わったことにより、今後は夢の感覚との相関研究がおこなわれていくことが予測される。

日本人の大学生の夢をもとに検証された感覚モダリティ別分類(岡田, 2000)では、夢の中でその感覚が「いつもある」と回答した人の割合が、視覚65.4%、色覚56.4%、聴覚50.2%、味覚1.3%、嗅覚1.0%、皮膚感覚5.5%、運動感覚47.9%、内臓感覚2.3%であり、一方で「めったにない」または「全くない」と回答した人の割合の合計が視覚2.6%、色覚7.2%、聴覚9.3%、味覚78.5%、嗅覚83.6%、皮膚感覚44.5%、運動感覚4.7%、内臓感覚54.7%であった。つまり夢で体験するメジャーな感覚として視覚、色覚、聴覚、運動感覚をあげ、マイナーな感覚として味覚、嗅覚、内臓感覚、皮膚感覚をあげている。また、Zadora, Nielsen, & Donderi (1998)は大学生の夢日記から聴覚、嗅覚、味覚の出現頻度を算出したところ、全体では聴覚53.20%、嗅覚1.01%、味覚0.86%、男性のみのサンプルに絞ると聴覚55.7%、嗅覚0.11%、味覚0.78%であり、こちらも味覚、嗅覚がマイナーな感覚であることが示されている。同様に、感情別分類(岡田, 2001)では、夢の中でその感情が「いつも感じる」と回答した人の割合が、嬉しさ12.6%、安堵感4.2%、希望8.0%、幸福感8.4%、怒り3.8%、悲しみ4.9%、恐怖感8.1%、焦り7.0%、緊張感6.2%、不安感5.5%、嫌悪感3.1%、驚き5.0%、羞恥心2.3%であり、一方で「めったに感じない」または「全く感じない」と回答した人の割合の合計が、嬉しさ5.4%、安堵感24.9%、希望19.3%、幸福感14.1%、怒り39.2%、悲しみ25.8%、恐怖感13.3%、焦り20.8%、緊張感25.1%、不安感20.5%、嫌悪感46.7%、驚き26.3%、羞恥心52.3%であった。また、Domhoff (2003)は成人を対象に、夢日記から幸福感、怒り、悲しみ、不安感の出現頻度を算出したところ、幸福感20.0%、怒り16.0%、悲しみ9.0%、不安感34.0%の出現率であったと報告している。さらに、肯定的感情を夢で多く経験する人は視覚、皮膚感覚、発話、運動感覚の体験が多く、一方で否定的感情の夢を多く経験する人は嗅覚や悪夢が多いなど、肯定的感情と否定的感情は夢の感覚モダリティともかかわっているという指摘もある(岡田, 2011)。

そこで本報告では、夢内容の報告から夢に現れた感覚と感情を確認することにした。これら一般的な大学生の夢の報告を参考に、研究協力者である ASD 者の夢感覚モダリティおよび感情を分類した結果を探索的に検討し、将来の ASD の感覚異常と夢の特徴の関連を検討する際の子備的な資料とする。

方 法

研究協力者および調査時期：情報学系を専攻している大学4年生男子で、アスペルガー障害の診断を受けている。学習面で困ると学生相談室に来談し、その都度、教員と相談員から教育的支援を受けている。本人との面談や行動観察から、しっかりとしたアイコンタクトが少ない、独り言が多い、本人からの発声の音量が大きすぎる、対面時の距離が近すぎる、人から触られるのが苦手などの特徴がみられた。毎晩十分な睡眠時間を確保しており、快眠傾向がみられる。想起する夢は鮮明で、夢の話了他者にすることを楽しんでいる。調査期間はX年7月1日から12月31日までの5か月間であった。

夢内容の分析

1) 夢に含まれる感覚モダリティの分析

夢見における感覚モダリティ別尺度（岡田, 2000）視覚（映像としてみえる）、色彩感覚（色がついている）、聴覚（音や声がついている）、味覚（味を感じる）、嗅覚（匂いを感じる）、皮膚感覚（痛い、熱い、冷たい）、運動感覚（自分が歩く、走る、何かする）、発話（自分が話す）、内臓感覚（空腹、満腹、のどの渇き、尿意、内臓の痛みがある）、これらの感覚が含まれているか、夢の記述から読み取れる感覚をコーディングした。

2) 夢に含まれる感情の分析

岡田（2001）の夢の感情別尺度をもとに、肯定的感情（嬉しさ、安堵感、希望、幸福感）、否定的感情（怒り、悲しみ、恐怖感、焦り、緊張感、不安感、嫌悪感）その他の感情（驚き、羞恥心）について、これらの感情が含まれているか、夢の記述から読み取れる感情をコーディングした。また、Daoust, et al. (2008) の指摘による悪夢の有無を確認するために、恐怖等否定的感情が含まれている割合にも注目した。同様に肯定的

感情、その他の感情の割合も算出した。

手続きおよび倫理的配慮：本人に研究目的および調査内容を説明し、夢日記法で本人の想起した夢の記録を求めた。具体的には、毎晩夢をみたか、みた場合には夢の内容の詳細を夢日記ファイルに書き込むよう依頼した。また、嫌な夢を思い出すことで不安になった時には、学生相談等のカウンセラーに相談できることを説明した。本人と相談の上、月1回のペースで合計7回面談し、終了の時期を卒業までと決定した。夢の資料をもとに感想等を聞く他には特に決まりはなく、本人が辞めたいときにいつでも調査を終えることができること、研究協力への本人の同意を書面で得て、夢の調査を開始した。

結 果

夢想起の頻度・量

5か月間の調査期間で記録した夢は42個、面談時に夢とそれに対する現実の感想を弁別し、想起した夢は最終的に37個であった。1週間に1～2個の夢想起と考えられ、男子大学生としては平均的であった（岡田, 2000）。夢の報告は、短文の連続であるものの、合計すると長く、十分な記述量があった（717字～7561字、平均2144.51字）。

夢内容の分析

夢の内容を3名の評定者が独立してコーディングを行い、一致をはかった。37個の夢のうち、夢見における感覚モダリティ別尺度と感情別尺度の指標について、記述から出現が確認できた割合を示す。

1) 夢に含まれる感覚モダリティの分析

一般的に体験頻度の高いメジャーな感覚モダリティ（視覚、色覚、聴覚、運動感覚）は高い割合でみられ、特に視覚は100%、聴覚65%、自分が夢の中で行動する運動感覚が68%であった。一方、一般的に体験頻度の低いマイナーな感覚モダリティ（触覚、嗅覚、味覚、内臓感覚、皮膚感覚）のうち、触覚は16%、嗅覚22%、味覚19%、皮膚感覚11%であった（Table 1）。これら確認された感覚モダリティを示す夢の記述例を呈示する（Table 2）。極めて鮮明な夢が多く、例えば

Table 1 感覚モダリティ別夢の割合

感覚モダリティ	鮮明性	視覚	色覚	聴覚	味覚	嗅覚	触覚	皮膚感覚	運動感覚	発話	内臓感覚
体験した回数	37	37	20	24	7	8	6	4	25	12	1
割合	100%	100%	54%	65%	19%	22%	16%	11%	68%	32%	3%

地震の夢では、地名と震度の数値を、テレビのニュース速報画面と同様に報告している (Table 2 #1)。#2の夢では、電車の種類、編成、方向幕とその文字やLEDの色にまで言及している。そして#2の夢の続きでは、視覚イメージの中で見えた電車と走行音にも気づき、視覚、色覚、聴覚が非常に明瞭で、現実との違いを意識して夢を見ている。#3の韓国の夢では、

キムチの辛さに慣れて、韓国料理の辛いにおいを美味しく感じるなど、味覚と嗅覚が示されていた。#4の夢では、キャンパスで留学生の女の子と抱き合い、手をつないで一緒に歩き、食事をしようとして美味しいにおいを感じている。触覚や運動感覚の他、嗅覚も示されていた。#5の夢では、クルーズ船で、冬なのに自分は暑く感じる皮膚感覚の夢であった。さらにク

Table 2 感覚モダリティに関する夢資料

<p>#1 首都直下型地震の夢 (鮮明性, 視覚) 首都直下型地震の時の場所は埼玉県で駅に向かう途中は弱い揺れだったが駅に着いた頃は大きな揺れを感じた。友達と駅で会い浦安に行くところだった。でも地震が揺れていけなくなり耐震工事した家で寝ながらニュースを見る事になった。(中略) 首都直下型地震の時夢で見た震度 千葉県北東部 震度7, 千葉県北西部 震度5～6度弱, 東京都区内 震度6強, 神奈川県内 震度4～5度, 埼玉 震度4～5度, 横浜・川崎 震度5度。津波警報はあり。ニュースで見た時は東京は耐震したビルで大丈夫だった。津波警報は翌朝8時までだった。津波の被害は千葉県房総半島のみ。それ以外は平気。(中略) 夢で見て地盤が緩んだ地域は千葉県のみだった。市は銚子市, 香取市, 四街道市, 佐倉市, 成田市, 富里市のみで成田空港のみは翌朝から滑走路は再開し京成スカイライナーも再開した。成田空港と羽田空港は元に戻り飛行機も飛べるようになった。でも千葉は被災地となった。(以下略)</p>
<p>#2 東急9000系と8000系副都心線対応車両の夢 (視覚, 色覚, 聴覚) 東急9000系は方向LED編成と方向幕が2つあり車内は変わってない状態でインバータも変わってない状態。LED案内も変わってないし走行音も変わってない。保安装置は東武ATSと西武ATC/SとATC-Pと新CS-ATCとATO。行先は和光市行きと元町中華街行きの他, 方向幕編成では桜木町行きが残っていた。基本は西武線飯能行きと小手指行きと清瀬行きと保谷行きと石神井公園行き, 東武線は川越市行きと志木行き。方向幕に入っていた種別は黒各停と青各停と急行と特急。通勤特急は10両のみである。東急8000系は前の赤線と歌舞伎編成と伊豆急色のみで一部は白色LEDに変えた編成もある。前の赤線のみは一部白色LEDに変えた。LED案内とドアチャイムを入れるようになった。新しい運転台で他社のATSとATOとCSATCが入っている。(中略) 各駅停車の方向幕は副都心線内は黒で東横線内は青だった。急行は変わらず赤。(以下略)</p>
<p>#3 韓国語話せる韓流ファンの女性と女子高生と韓国人の話 (味覚, 嗅覚) 韓国の明洞のホールでKPOPのライブが行われる。(中略) 明洞での話はチェジュウの話もした。韓国料理屋では辛い物を食べ初慣れをした。キムチはからくておいしいと話をしていて僕も苦手を忘れた。(中略) ライブはよかったし韓国料理のおいしいにおいを夢で感じた。辛いにおいもした。・・・アジアナ航空もいい。(以下略)</p>
<p>#4 留学生と恋人になった夢 (触覚, 運動感覚, 嗅覚) 留学生とは大学で恋人になったこと。ホールから階段に女の子が来てと言われて抱き合ったこと。キャンパスから上野駅に行く事になった。留学生と手をつないで歩くことになり駅まで。でも上野駅に食べに行くことになりおいしいにおいがした。(以下略)</p>
<p>#5 中学の頃記憶に残った夢 (皮膚感覚) 中1の正月にも見た夢だった。冬なのに暑かった。船で見た。マイアミ空港からクルーズの港に行く時クルーズの旅の後にディズニーと提携している遊園地に行った夢を見たのが記憶にあった。クルーズの中で夢を見ている夢だった。(以下略)</p>
<p>#6 プロの水泳選手になる修行 (運動感覚) その話は2020年のオリンピックにでる修行であり平泳ぎが早いと判断されたのでそれで出ることになったことである。でもバタフライもリズムが合っていないと厳しく若い女性講師に怒られながら練習したのできたし背泳ぎは平気, 問題はクロールと言われた。(中略) 次の日は泳ぎ方怒られた。クロールの腕の回し方について怒られた。(以下略)</p>
<p>#7 大学1年生の時Aさんに怒られた夢を見た (発話) (前略)B先生は1年生の担任でAさんのクラスを持っていた。その時は文化祭で久しぶりにB先生にAさんの夢について報告した。B先生も夢に出ましてC先生に似た先生も出た。その先生とも話した。(以下略)</p>
<p>#8 800系に乗る前に乗ったひかりレールスター及び700系 (内臓感覚, 運動感覚) (前略) 鹿児島に行った時は山陽九州新幹線が平常運転して最後のみずほに乗ることになった。その時は女性にいいことをした。トイレに行きたいと思ってトイレに入った後もチケットが落ちていた。落ちたチケットは車掌さんに届けて女の子に渡した。2人にありがとうございました。と言われた。(以下略)</p>

ルーズ船の中で夢をみている自分を夢で見ているという、入れ子構造になっている。#6の夢では、水泳選手となり、バタフライやクロールの練習で女性講師に怒られながら必死で腕を回していると、運動感覚が明瞭に示されている。#7の夢では、自分がAさんに大学1年生の時に怒られた夢を、その時期に担任だったB先生に話し、C先生に似た先生にも話している（発話）。#8の夢は、列車の中で尿意を感じて（内臓感覚）、トイレに行く途中でチケットを拾い、車掌さんに届けて2人の女の子に感謝されている。報告された夢は、全般的にあらゆる感覚が鮮明で、明晰な傾向にあるといえた。

2) 夢に含まれる感情の分析

強い肯定的感情（喜び、驚きなど）と強い否定的感情（怒り、恐怖、不安、悲しみなど）を示す表現が双方とも少ないが、嬉しさ49%、幸福感32%、希望19%といった肯定的感情が含まれている夢が比較的多く、重複を除き全体の68%を占めていた（Table 3）。一方で、悲しみ0%と嫌悪感0%は全く見られず、恐怖感5%、不安感3%と、否定的感情が含まれる夢は全体の16%にとどまり、その他の感情（驚き、羞恥心）は全く出現しなかった。夢に含まれる感情を分析したDomhoff (2003) のデータを統制群（282例）としてこ

れを参考に本データ（34例）と比較し効果量を算出したところ、怒り（Cohenの*h* (effect size) =-0.47, *p*<.01）、悲しみ（Cohenの*h* (effect size) =-0.61, *p*<.001）、不安感（Cohenの*h* (effect size) =-0.90, *p*<.001）に関しては本データのほうが有意に少なかった。

また、肯定的感情と否定的感情が同時に含まれた複雑な感情を伴う夢の出現は3例（8%）にとどまった。

3) 夢の報告時のヒアリングおよび行動観察

出現するテーマは本人にとって楽しい夢であるようで、夢を思い出すことを楽しんでいて、夢に登場した事物を、夢内容の文章とともに、現実と夢イメージとの違いがはっきりわかるように合成した画像を付けて夢日記に記録していた（Table 4 #9, #10）。夢の報告について口頭で尋ねると、夢と現実の区別は明確であった。夢の鮮明性は高く、Table 2の#7にあるように、「C先生に似ているが違う先生と話した」と夢の中に曖昧な人物や事物は登場しない。夢に出てきた事物が現実と異なる時は、その詳細について言語報告ができた。また、面談の中で夢の内容と現実の生活についての聞き取りから、本人の好きなもの、特に食べ物に関しては脂っこく、甘いものと辛いものを特に好むようであった。

Table 3 感情別夢の割合

感情	肯定的感情					否定的感情							その他の感情			
	嬉しさ	安堵感	希望	幸福感	合計	怒り	悲しみ	恐怖感	焦り	緊張感	不安感	嫌悪感	合計	驚き	羞恥心	合計
体験した回数	18	2	7	12	25	1	0	2	3	2	1	0	4	0	0	0
割合	49%	5%	19%	32%	68%	3%	0%	5%	8%	5%	3%	0%	11%	0%	0%	0%

Table 4 視覚鮮明性に関する夢資料

#9 ユナイテッド航空羽田就航

(前略) 現在のユナイテッド航空のデザインはコンチネンタル航空のデザインである。夢で見た時はかなり古い塗装で、B747機だったが現在の塗装とは異なった。古い塗装でA380も羽田就航した。ユナイテッド航空はコンチネンタル航空と合併してそのデザインになった。しかし、まだ古いデザインは残っている。(中略)

ユナイテッド航空の羽田新ターミナルが出来た夢を見た。B747機の古い塗装とA380をが入った夢を見た。エアバス380の塗装も4種類あった。ユナイテッド航空羽田—グアム便の機材はコンチネンタル航空デザインで就航していた。小さい機材でビジネスはフルフラットではない。ユナイテッド航空B747はニューアークとロサンゼルス便でA380のアメリカンも成田—ジョンFケネディへ行くようになった。A380はサンフランシスコ、シカゴ、ヒューストン便だった。次のページにはデザイン及び機材を書く。(以下略)

#10 ロマンسカーの豪華な食事及び小田急グループの未来

小田急電鉄首都圏大手私鉄初のグランクラスタイプのシートに座った夢。グランクラスで寛ぐ特急であり恋人との首都圏大手私鉄初のグランクラスだった。でも食事も豪華なお弁当だった。アテンダントは小田急と変わらずロマンスカーアテンダント。グランクラスは二階2両繋いであり、前は展望席だった。車両はVSEの形だった。(以下略)

考 察

本研究の目的は、研究協力者である ASD 青年の夢の報告に顕れる感覚モダリティおよび感情を分析した結果を、一般的な大学生の夢の報告と比較検討することで、ASD の特性と夢の特徴の関連を予備的に検討することであった。

夢の報告の中では高頻度で体験され出現する視覚や聴覚などメジャーな感覚に関しても、非常に鮮明な夢を想起していた。また、食べ物の匂いや味わいの報告がみられるなど、夢の報告では低頻度で体験されるマイナーな感覚である嗅覚と味覚が同時に出現する夢が相対的に多かった。大学生の夢日記を分析した Zadra et al. (1998) では、嗅覚と味覚に関しては 0.1～1% 程度の出現率であり、少なくとも嗅覚および味覚の体験は比較的多いといえる。本人が好きで、覚醒時も嗅覚や味覚に敏感なのではないかと覚醒時の生活と夢内容の連続性仮説 (Domhoff, 2017; Schredl, 2017) との一致が推測された。実際に Mathes, et al. (2014) の夢日記における頻出テーマ (付録) と比較した結果、7 位の「美味しいものを食べる」が 7 例、18 位の「鮮明にみえる」が全 37 例と高頻度で確認された。熊崎 (2016) は、青年期においても、ASD 者は嗅覚や味覚に敏感といった指摘をしているため、夢の感覚でもそれらが反映された可能性が考えられる。よって、ASD の特性と夢の特徴に関する研究では、夢の感情やテーマのみならず感覚を検討することも必要と考えられた。

今回分析対象とした夢の資料には、思考内容やファンタジーが「そのまま」夢に現れてくるようであるが、実際に体験した内容をベースにして、見知らぬ事物や人物はほとんど出現しないため、その意味では創造性には乏しく、ASD の典型的な特性である想像力の乏しさを反映していると考えられるが、同じ夢が繰り返し出現しているというわけではない。バリエーションのない同じ夢が出現する傾向を持つ精神疾患に、心的外傷後ストレス障害 (Post-Traumatic Stress Disorder: PTSD) がある (American Psychiatric Association, 2013)。PTSD は実際に体験した場面がイメージとして侵入してくるので、覚醒時はフラッシュバック、睡眠中は悪夢となるため、現実か夢の区別がつかなくなる傾向があるが (松田, 2006)、本事例の場合には、悪夢の想起はなく、空想と現実の区別をつけて、夢は夢として楽しんでいられる様子が窺えた。ASD 児のファンタジー没入が日常生活や学校生活上の問題を引き起こすという指摘があるが (齊藤・佐野・小林, 2019)、日常生活でも独り言が多く観察された ASD 青年であるが、ファンタジーと現実との境

界を自己制御できているということであろう。その意味では、夢と現実を明確に区別できる人格で、解離性は低いと推察される (Rassin, Merckelbach, & Spaan, 2001)。

以上を総括すると、本研究の協力者である ASD 青年の夢の報告の特徴として、夢が鮮明で、メジャーな感覚のみならず嗅覚や味覚といったマイナーな感覚の体験も多く、怒り、悲しみ、不安感といったネガティブな感情の体験が少ない結果となった。いわゆる悪夢は 1 つも確認されず、Lemyre et al. (2019) や Daoust et al. (2008) の知見を追認した。

別宮・吉村 (2008) が開発した ASD 児の行動アセスメントツールには「感覚異常による行動」として、特定の音に敏感である (聴覚過敏)、食べ物の味や温度に敏感であり、特定の食べ物しか食べない (味覚への固執)、何でも臭いをかぐ (嗅覚の鈍麻)、痛みに鈍感である (痛覚の鈍麻)、長袖を切ることを痛がる (触覚過敏)、などの項目が含まれており、今後はこれらを活用した ASD 児・者の感覚異常と夢の感覚モダリティの関連性を検討する余地があると考えられる。また、幼児期後期 (3～4 歳) からの夢の自己報告資料を使用した研究もあり (麻生, 1996)、幼児期以降の子どもを対象にした研究も可能になると考えられ、夢を元に対象者のファンタジーを共有することも、対象者の特性を把握することに役立つと考える。

夢と認知発達の研究において、夢内容と認知・思考の発達レベルとの対応は、ASD 等、発達障害を有する ASD の感覚異常と夢の特性の関連性について検討しうるに十分な児童期から青年期を対象とした調査データを積み重ねて検証することを今後の課題とする。

引用文献

- American Psychiatric Association (1994). *Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, fourth edition*. Washington, DC: American Psychiatric Press Inc.
- American Psychiatric Association (2013). *Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fifth Edition*. Arlington: Amer Psychiatric Pub Inc.
- 青木悠太 (2012). 特集 精神科診断分類の改訂にむけて DSM-5 の動向—DSM-5 ドラフトにおける精神障害 1. 神経発達障害. *臨床精神医学*, 41, 535-541.
- 麻生武 (1996). 子どもと夢, 岩波書店
- 別宮直子・吉村裕之 (2008). 自閉症児の行動異常を容易に評価できる尺度の開発—行動異常の程度と母親

- の健康度および疲労度との関連性—。日本看護科学会誌, 28(3), 34-42.
- 長南幸恵 (2014). ASD 児者の感覚の特性 (過敏と鈍麻) に関する国内研究の動向. 自閉症スペクトラム研究, 12, 29-39.
- Daoust, A. M., Lusignan, F. A., Braun, C. M., Mottron, L., & Godbout, R. (2008). Dream Content Analysis in Persons with an Autism Spectrum Disorder. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 38, 634-643.
- Domhoff, G.W. (2003). *The scientific study of dreams: Neural networks, cognitive development, and content analysis*. Washington, DC: American Psychological Association.
- Domhoff, G. W. (2017). The invasion of the concept snatchers: The origins, distortions, and future of the continuity hypothesis. *Dreaming*, 27(1), 14-39.
- Hilakivi, L. (1987). Sleeping and dreams in learning-disabled boys. *Acta Psychiatrica Scandinavica*, 76, 103-105.
- Hiscock, M. & Cohen, D.B. (1973). Visual imagery and dream recall. *Journal of Research in Personality*, 7, 179-188.
- 熊崎博一 (2016). 自閉スペクトラム症の嗅覚特性. 高次脳機能研究, 36(2), 214-218.
- Lemyre, A., Bastien, C., & Vallières, A. (2019). Nightmares in mental disorders: A review. *Dreaming*, 29, 144-166.
- Levin, R., & Fireman, G. (2001-2002). The relation of fantasy proneness, psychological absorption, and imaginative involvement to nightmare prevalence and nightmare distress. *Imagination, Cognition and Personality*, 21, 111-129.
- Mathes, J., Schredl, M., & Goritz, A.S. (2014). Frequency of typical dream themes in most recent dreams: An online study. *Dreaming*, 24, 57-66.
- 松田英子 (2006). 夢想起メカニズムと臨床的応用. 風間書房.
- 松田英子 (2019). 青年期の発達課題と夢想起の関連の検証—発達障害のある青年が語る夢の事例分析. 東洋大学社会学部紀要, 57, 71-82.
- 岡田斉 (2000). 夢想起における感覚モダリティ別体験頻度. 人間科学研究, 22, 139-147.
- 岡田斉 (2001). 夢想起における感情別体験頻度. 人間科学研究, 23, 45-54.
- 岡田斉 (2011). 夢の中で感じる感情の頻度: 肯定的感情が多い人と否定的感情が多い人の夢にはどのような違いがあるのだろうか. 人間科学研究, 33, 31-40.
- Rassin, E., Merckelbach, H., & Spaan, V. (2001). When dreams become a royal road to confusion: realistic dreams, dissociation, and fantasy proneness. *The Journal of Nervous and Mental Disease*, 189, 478-481.
- 齋藤みのり・佐野伸之, 小林隆司 (2019). ファンタジー没入によって生活障害を呈する広汎性発達障害男児への支援. 作業療法, 38, 72-77.
- Schredl, M. (2017). Theorizing about the continuity between waking and dreaming: Comment on Domhoff (2017). *Dreaming*, 27(4), 351-359.
- Schredl, M., Bumb, J. M., Alm, B., & Sobanski, E. (2017). Nightmare frequency in adults with attention-deficit hyperactivity disorder. *European Archives of Psychiatry and Clinical Neuroscience*, 267, 89-92.
- 志澤美保・義村さや香・趙朔・十一元三・星野明子・桂敏樹 (2018). 幼児期の食行動に関連する要因の研究: 自閉症的傾向, 感覚特性および育児環境に焦点をあてて. 日本公衆衛生雑誌, 65, 411-420.
- 鈴木千恵・松田英子 (2012). 夢想起の個人差に関する研究—夢想起の頻度にストレスとビックファイブパーソナリティが及ぼす影響—. ストレス科学研究, 27, 71-79.
- 高橋智・田部絢子・石川衣紀 (2012). 発達障害の身体問題 (感覚情報調整処理・身体症状・身体運動) の諸相—発達障害の当事者調査から. 障害者問題研究, 40, 34-41.
- 辻富彦 (2018). 自閉症スペクトラムなどにおける聴覚過敏について—保護者に対するアンケート調査と文献的考察—. 日本耳鼻咽喉科学会会報, 121, 679-687.
- Zadra, A.L., Nielsen, T.A., & Donderi, D.C. (1998). Prevalence of auditory, olfactory and gustatory experiences in home dreams. *Perceptual and Motor Skills*, 87, 819-826.

(2020.10.1 受稿, 2021.3.16 受理)

付録 Mathes, Schredl, & Goritz (2014) による夢日記における頻出テーマ

1位	学校・先生・勉強	31位	竜巻と強い風
2位	追いかけられる・追う	31位	映画に出ている
3位	間に合わない	33位	精神活動に優れている
4位	何度も何かにトライする	33位	鏡の中の自分を見る
5位	泳ぐ	33位	想像上の動物や人間
6位	性的経験	36位	誰かを殺す
7位	美味しいものを食べる	37位	精神病患者
8位	不適切な衣服	38位	蛇
9位	凶暴な野獣	38位	窒息させられて息ができない
9位	閉じ込められる	40位	歯が抜ける
11位	乗り物のコントロールを失う	41位	とても近くに顔が迫ってくる
12位	攻撃される	42位	金縛り
13位	試験に落ちた	42位	神に遭う
14位	今生きている人が夢の中で死亡	42位	反対の性になる
15位	昆虫・蜘蛛	45位	飛行体が壊れるのを見る
16位	空飛ぶ	46位	恐怖で凍りつく
16位	洪水・津波	47位	魔法（飛ぶ以外）
18位	鮮明に見える	47位	地球外生命体に遭う
18位	足元が崩れて落ちる	47位	誰かが中絶した
20位	死んでる人が夢の中で生きている	50位	自分が死んでいるのを見る
20位	火事	50位	地震
22位	トイレが見つからない	50位	UFOを見る
23位	悪い人や悪魔と戦う	53位	天使を見る
24位	縛られて息ができない	54位	他の惑星に旅行する
25位	落ちる	54位	動物になる
25位	裸になる	54位	物体になる
27位	殺される		
27位	お金を見つける		
27位	新しい部屋を見つける		
30位	子どもにかえる		

A Preliminary Study on the Relation between the Characteristics of Autism Spectrum Disorder and the Sensations and Emotions of Dreams

EIKO MATSUDA

(FACULTY OF SOCIOLOGY, TOYO UNIVERSITY)

KAZUO MATSUOKA

(FACULTY OF HUMANITIES AND SOCIAL SCIENCES, IWATE UNIVERSITY)

HITOSHI OKADA

(FACULTY OF HUMAN SCIENCES, BUNKYO UNIVERSITY)

THE JAPANESE JOURNAL OF MENTAL IMAGERY, 2021, 19, 1–9.

Most international reports regarding research on autism spectrum disorder (ASD) and the characteristics of dreams have conducted analysis based on emotions and themes of dreams; however, there are few reports on this topic in Japan. Recently, DSM-5 added a new paresthesia to the diagnostic criteria for ASD; therefore, it is expected that future research on paresthesia and dream sensations will be needed. The purpose of this study is to classify the sensory and emotional features of dreams recorded in the home dream diaries of adolescents with ASD. Dream materials were obtained from a fourth-year college student with ASD the collaborator was able to recall their dreams in vivid detail and enjoyed the dream reports. Qualitative analysis suggested that the content of the recalled dream reflected the vividness of the visual and auditory image and hypersensitivity of the minor sensations in the dreams such as gustatory and olfactory. Additionally, the collaborator experienced many positive emotions in their recalled dreams, although few negative emotions surfaced. A future challenge is to investigate the relationship between paresthesia in ASD and dreams using an enough sample data spanning from childhood to adolescence.

Keywords: autism spectrum disorder, dream content analysis, dream sensations, dream emotions, paresthesia